

## トランスジェンダー当事者から見る「日本家族」

本稿では、トランスジェンダー当事者へのインタビュー調査をもとに、トランスジェンダー当事者の視点からみた「現代日本社会における『家族』という組織の構造変容による影響」と「トランスジェンダー当事者と『家族』の関わり」の2点を明らかにすることを目的とした。

本稿執筆にあたって、インタビュー調査とアンケート調査の双方を行った。インタビュー調査では、関東地方在住の30代トランス男性の「後藤さん」に対し、半構造化インタビューの手法を用いて、雑談等を含め1回1時間半程度のインタビューを2022年8月から2024年8月までの約2年間で累計70回行った。また、後藤さんの所属する性的マイノリティが多く参加しているコミュニティの正規・非正規メンバー計150名を対象に、「家族に関する困難を抱えた経験の有無」を主な内容とするアンケート（一問一答形式および自由記述）を実施した。そのうち回収できた回答は132通であり、その中で有効な回答として取り扱えたものは130通（内訳：性的マイノリティ30名、シスジェンダー&ストレート100名）であった。

以上の筆者の行ったインタビュー調査とアンケート調査のほか、総務省統計局や内閣府男女共同参画局などの各調査結果を用いて分析し、その結果、現代日本社会における「家族」という組織の構造変容による影響は、トランスジェンダー当事者をはじめとする性的マイノリティらにも大きな影響を与えており、「家族」における性別分業や、家庭内における性別二元論を基準とする価値観が緩和されたことによって、トランスジェンダー当事者の視点としては「以前に比べれば生きやすい社会になってきている」といえることが明らかになった。